

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
令和元年度 3 月

○ 概要

(1) 令和 2 年 3 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 6,777 億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+0.7%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,892 円（伸び率+11.3%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,660 億円（伸び率▲5.7%）薬剤料が 5,105 億円（伸び率+2.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が 951 億円（伸び率▲2.3%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,912 円（伸び率+14.9%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.77 種類（伸び率+2.3%）、27.0 日（伸び率+10.8%）、79 円（伸び率+1.4%）であった。（→P.8,9）

(3) 内服薬の薬剤料 4,050 億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+150 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 701 億円（伸び幅+8 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 39 その他の代謝性医薬品の+63 億円（総額 658 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,050 億円 (+150 億円)	21 循環器官用薬 (701 億円)	11 中枢神経系用薬 (689 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(658 億円)
0 歳以上 5 歳未満	24.2 億円 (▲7.6 億円)	44 アレルギー用薬 (11.0 億円)	61 抗生物質製剤 (3.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	91.0 億円 (▲21.7 億円)	44 アレルギー用薬 (41.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (22.0 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.3 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,448 億円 (+21 億円)	11 中枢神経系用薬 (301 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(250 億円)	21 循環器官用薬 (212 億円)
65 歳以上 75 歳未満	949 億円 (+54 億円)	21 循環器官用薬 (194 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(188 億円)	42 腫瘍用薬 (123 億円)
75 歳以上	1,538 億円 (+105 億円)	21 循環器官用薬 (291 億円)	11 中枢神経系用薬 (253 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(213 億円)

(4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,892 円（伸び率+11.3%）で、最も高かったのは北海道（11,926 円（伸び率+12.9%））、最も低かったのは佐賀県（8,161 円（伸び率+8.4%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは高知県（伸び率+14.6%）、最も低かったのは島根県（伸び率+4.4%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	80.4 %	+2.8 %
薬剤料ベース	18.6 %	▲1.0 %
後発品調剤率	75.7 %	+2.0 %
（参考）数量ベース（旧指標）	55.4 %	+1.5 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔（後発医薬品のある先発医薬品の数量） + 〔後発医薬品の数量〕〕 で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.3 %	+4.9 % (70 歳以上 75 歳未満)	▲24.3 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.6 %	22.9 % (0 歳以上 5 歳未満)	13.2 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	80.4 %	82.8 % (60 歳以上 65 歳未満)	72.7 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	820 億円 (▲37 億円)	21 循環器官用薬 (246 億円)	23 消化器官用薬 (108 億円)	11 中枢神経系用薬 (103 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.2 億円 (▲1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (3.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	61 抗生物質製剤 (1.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	20.7 億円 (▲7.7 億円)	44 アレルギー用薬 (13.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	61 抗生物質製剤 (1.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	293 億円 (▲25 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	44 アレルギー用薬 (53 億円)	11 中枢神経系用薬 (50 億円)
65 歳以上 75 歳未満	192 億円 (▲5 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(20 億円)
75 歳以上	307 億円 (+3 億円)	21 循環器官用薬 (102 億円)	23 消化器官用薬 (52 億円)	11 中枢神経系用薬 (36 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,388 円	1,832 円(北海道)	1,122 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+8.0%	+12.7 % (山梨県)	+1.2 % (島根県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	80.4 %	88.7 % (沖縄県)	74.3 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.6 %	22.0 % (鹿児島県)	16.3 % (京都府)
後発医薬品調剤率	75.7 %	82.9 % (沖縄県)	70.5 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	55.4 %	63.9 % (沖縄県)	51.3 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和2年3月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。